

共同礼拝

2022年11月13日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 姜 匠米

前 奏

招 詞 詩 編 39編7, 8節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 34編16～23節 (旧865)
マタイによる福音書 11章25～30節 (新20)

祈 禱

子ども祝福の祈り

使徒信条

讃 美 歌 354 (1)

説 教「賢いものに隠して」牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 333 (1)

献 金

頌 栄 543

祝 禱

後 奏

11月の祈り

定められた時間に、限りあるものとして生きながら、限りない主の慈しみに生かされていることを覚え、主の恵みを振り返ることができるように。

終わりの日主の再び来られるという希望を持って信仰の歩みを重ねることがきるように。

子どもたちが守られ祝われて霊と肉体共に健やかな成長が与えられるように。

アドベント、クリスマスに向けて信仰の歩みが整えられるように。

今日の祈り

教会に連なる子どもたちが主の祝福を受け、人々に愛され守られ、こころもからだも健やかに穏やかに成長することができるように。

寒さに向かう中、戦火にある子どもたちが守られるように。平和が与えられるように。

「賢いものに隠して」 高橋和人

マタイによる福音書 11:25～30

主イエスは「知恵あるもの、賢いものには隠して、幼子のようなものにお示しになりました。」と父なる神を讃える。「讃える」は認識という言葉、主イエスには父なる神の御心がはっきり認識された。それこそ讃えるべきものとなった。

御心は隠されている、そのために「してくれない」と嘆く。「知恵あるもの、賢いもの」は神を知っているかのようにふるまう。律法学者たちだ。また知恵あるものは知恵を用いて何かを手にした者たち、世の賢さに長けているもの知的満足者たちだ。

主イエスは、そこには隠され、幼子のようなものには示されるという。それは、素朴な信頼に生き

る。親から離れられないという知恵である。親がいなければ生きられないという知恵だ。

人は成長し、ひとりで生きるために、知恵を身に付け自立しようとする。それが大人になることだ。人は神からも独り立ちしようとする。大人として生きることは不安とむなしさを残すばかりだ。手にしたものは失われるからだ。それでも人は頼りのない自分にしがみついている。

大人の知恵と賢さは、隠れたものを見つけることはできない。自分で得たものは全て与えられたことに気づかないからだ。

主イエス自身も父なる神と一つである。主イエスは父なる神を表される。主イエスは父なる神の御心そのものだ。

ヨハネ福音書は「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。」(1:18)と語る。独り子の十字架は神の御心を示した。

それは、主イエスにある安息に招く。主は「休ませてあげよう」と言われる。ここで主は「わたし」を四回繰り返す。どんなに強く招かれることか。信仰は主のもとに行くことである。

疲れた者、重荷を負う者、誰もがそうだ。くびきは十字架と理解されてきた。主イエスの十字架を信じることは、わたしの重荷を主が十字架によって負って下さり、わたしは、それを信じることで休みを得られる。

安息日は主の日の礼拝となった。ここには主の柔和さがある。負いやすく軽いのは歩調が合わされるからだ。十字架はわたしたちを置き去りにされることはない。